

<今回>256回目 2019年4月22日(月)15時~18時 1501号室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p25連鎖の論理 から

<前回>255回目(19-4-8) 出席者 13名

資料(19-04-08-1)前回のまとめ(清水) -2)新元号について(清水)

-3)郡評論争(清水) -4)日程表4月22日16時を15時からに変更、9月まで

A 報告 4月8日に京都からわざわざ古田光河氏が参加された。古田先生との読書会と電話交信のあったことを知り、どんな雰囲気のかか参加してみたかったという。懇親会も最初だけと云われていたが最後までかなり饒舌で、京都へ帰られた。今回から東戸塚講座や朝日カルチャーの山田宗睦先生の日本書紀講座に参加されていた庄司恵子さんが初参加された。3月29日逗子の長柄桜山古墳を山本、白石、初田、清水と4人で参加した報告をした。

B 資料 -2)新元号について、万葉集巻5の梅花の宴の参加者名簿に近畿天皇家の派遣官と現地官僚の混在を見つけられないかと紹介した。新元号は上から目線の印象がある。大墨氏が万葉集の「令」の文字を検索したら121か所あり、そのうち良い意味の美しいは2か所、残り119か所は仕向けるなど命令の意味であったと紹介した。

-3) 郡評論争は決着がつか「評」の文字が出れば700年以前と炭素14法よりも古代史学会、考古学学会では年代決定力をもっている。論争に負けた坂本博士の「何故日本書紀や万葉集では評を郡にかえたのかその理由がわからない」という疑問は古田説の九州王朝説のみが回答しうる。事例⑨⑩は関東で確かめることができる。

懇親会10名 津多屋16016円(1500・10) -1016円

C 読書 p20「後漢書の立場」から 交代読み

1) 著者の范曄は5世紀の人物である。後漢時代は紀元後1,2世紀であり、三國志は3世紀である。が5世紀の読者(代表南朝劉宋の天子)に対して書かれている、また5世紀の知識の上に立って書かれている。当然先行する後代の三國志(魏志倭人伝)の記事も踏まえている。

2) 動かぬ証拠として3例上げた(省略)、三國志も彼の見識で読みかえたところがある。女子多しとか会稽東治を東治にしたのは誤解がある。范曄は陳寿を無批判に継承せず、5世紀の知識と自分の見識で書き改めたところのある歴史書であるという事実は動かしがたい。

3) 倭国は前2,1世から後1から3世紀だけでなく5世紀の今の書に照らしても代代通行していた中心王朝は九州倭国である。宋書の倭の五王の通行記事の例を挙げて証拠としている。讚、珍、斉の通行時期は范曄と同時代である。

4) 隋書と旧唐書の立場 隋書は倭国の中国貢献史を最初から述べている。漢の武帝の時、後漢安帝の時(金印、帥升)、恒~靈の間(146から189年)乱れ攻伐、卑弥呼を擁立、魏より斉、梁に至り代々相通ず。旧唐書も同じ。

5) 旧唐書の日本伝に①日本国は倭国の別種なり、②其の国日辺に在るを以て故に「日本」を以て名とする。③或いは云う倭国自ら其の名の雅ならざるを知り、改めて「日本」と為す、④或いは云う日本はもと小国、倭国の地を併せたり。

6) 中国の視点では古き王朝「倭国」と新しき王朝「日本国」とは別の王朝である。両者を別の伝として扱っている記載様式からも明らかである。(貞観23年648年以前を「倭国」の項に、長安3年703年以降を「日本」の項に扱っている。

途中本の誤植について安藤氏から紹介あり。栄惑一熒惑(火星)単校本では140p、8L、ミネルヴァ版140p後ろから4L、朝日文庫本177p後ろから3L、角川文庫本170p5L。大墨氏からも角川298p、幾百人一数百人ほか数例、指摘あり、光河氏から出来るだけミネルヴァ版には反映させたいと回答があった。ほかに事例があれば光河氏に連絡したい。

次回日程 19-5-13(月) 15時から18時 602号室

-5-27(月) 15時から18時 602号室

－6－3(月) 15時から18時 306号室